

平成28年度
鹿児島県立伊集院高等学校
シラバス

3年生用



3年()組()番

氏名()

シラバスって何？

シラバスとは、各学校の教育活動に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等が記載されます。

シラバスの語源

英語のシラバス(syllabus)は、ギリシャ語の *sittuba*，すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」，または「標題紙」という意味の言葉を語源とします。

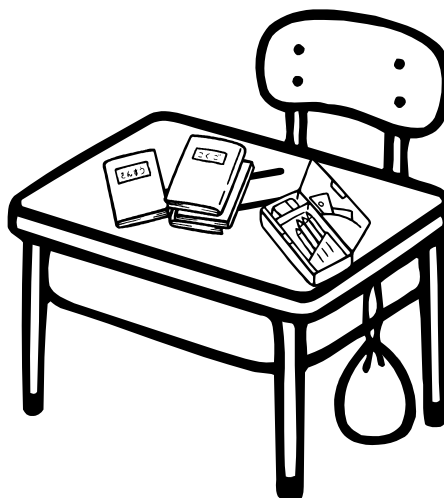
伊集院高校シラバス活用のポイント

本校のシラバスは、教科・科目ごと1頁に、次の項目をまとめてあります。

- (1)教科・科目の目標
- (2)学習のねらい・学習内容
- (3)試験範囲・出題方針
- (4)評価の観点・方法
- (5)学習のアドバイス

みなさんがより効果的に学習を進めていけるように、教科・科目によっては、学習内容の順番や時期を変えたり、内容を精選してあるものもあります。シラバスに記載された各教科・科目の学習目標にしたがって家庭での学習計画を立案・実践してみましょう。きっと、すばらしい成果があがると思います。

学年や文理のコースによっては、進学に向けて教科書早期採択を行ったり、大学に備えた授業を展開する教科・科目もあります。シラバスを熟読し、学年末には各教科・科目の到達目標をクリアできるよう期待します。



教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
国語	現代文B（文）	3	必修	一斉	普通	3

No. 1

現代文B

教科書（発行所）	『精選現代文B』（東京書籍）					
教科書以外の教材	『頻出漢字マスター 3000』（尚文出版） 『最新国語便覧』（浜島書店）					

目 標		1 文章の的確な読解を通して、客観的に理解・認識する力、主体的に判断する力を養う。 2 日本語の美しさや表現の豊かさを味わうことで、感受性や想像力を育む。 3 自身の考えを効果的に伝える表現力・コミュニケーション力を高める。 4 生涯にわたり読書に親しむ習慣を身につける。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	評論1 「現実と仮想」 「言語と記号」	・構成・展開・要旨などを、文章に即して的確に読み取る。 ・脳科学や言語・記号論についての文章を読み、思索を深める。	実力考查
	5月	小説1 「檸檬」 「赤い繭」	・場面や登場人物の描写を的確に捉える。 ・心象風景を描いた小説の読み取りを通じて、洞察力を養う。	中間考查
	6月	評論2 「他者の声 実在の声」 「鏡の中の現代社会」	・筆者の述べる人間・社会について、的確に理解する。 ・他者や異文化世界についての文章を読み、さまざまな見方があることを知る。	
	7月	評論3 「垂直のファッション、 水平のファッション」	・語句の意味や表現上の特色を捉え、自分の表現に役立てる。 ・人間におけるファッションや文学の役割について、複数の視点から考える。	期末考查
	8月			実力考查
二学期	9月	小説2 「舞姫」	・文語文で書かれた小説を読み、内容を的確に理解して味わう。 ・時代背景をふまえて登場人物の言動・心理を読み取り、人間の生き方について考えを深める。	
	10月	評論4 「グローバル化のゆくえ」 「原始社会像の真実」	・筆者の述べる人間・社会についての的確に理解する。 ・空間的、時間的に異なる世界について論じた文章を読み、思索を深める。	中間考查 実力考查
	11月	入試問題演習	センター試験対策及び個別試験対策 選択肢型の問題演習を中心に、入試問題対応力をつける。卒業考查	
	12月	入試問題演習	センター試験対策及び個別試験対策 選択肢型の問題演習を中心に、入試問題対応力をつける。	
三学期	1月	入試問題演習	センター試験対策及び個別試験対策 選択肢型の問題演習を中心に、入試問題対応力をつける。	
	2月	入試問題演習	個別試験対策 記述式の問題を中心に大学入試問題演習を行う。	
	3月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		○予習の段階で語句の意味は必ず辞書で調べておくこと。また、疑問点を明らかにしておこう。 ○授業では、内容を完全に理解できるように積極的に参加しよう。 ○復習では、要約に取り組むこと。内容が分かるまで辞書を使い、及速に間違いを訂正し、納得するまで。 ○この1年は幅広く新聞や新書などなるだけ多くの本を読むことです。		
評価の観点		1 関心・意欲・態度…言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。 2 話すこと・聞くこと…目的や場に応じて話したり聞いたりして、自分の考えを深め発展させている。 3 書く能力…相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め発展させている。 4 読む能力…文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読み、自分の考えを深め発展させている。 5 知識・理解…言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについて理解を深め、知識を身に付けている。		
評価の方法		①定期考查②実力考查③授業への取り組み④課題の提出状況⑤小テスト⑥ノートにおける予習復習の状況などから総合的に評価する。 *授業においての意見発表への意欲と的確さを求める。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
国語	現代文B（理）	2	必修	一斉	普通	3

No. 2

現代文B

教科書（発行所）	『精選現代文B』（東京書籍）					
教科書以外の教材	『頻出漢字マスター 3000』（尚文出版） 『最新国語便覧』（浜島書店）					

目 標		1 文章の的確な読解を通して、客観的に理解・認識する力、主体的に判断する力を養う。 2 日本語の美しさや表現の豊かさを味わうことで、感受性や想像力を育む。 3 自身の考えを効果的に伝える表現力・コミュニケーション力を高める。 4 生涯にわたり読書に親しむ習慣を身につける。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	評論1 「現実と仮想」 「言語と記号」	・構成・展開・要旨などを、文章に即して的確に読み取る。 ・脳科学や言語・記号論についての文章を読み、思索を深める。	実力考查
	5月	小説1 「檸檬」 「赤い繭」	・場面や登場人物の描写を的確に捉える。 ・心象風景を描いた小説の読み取りを通じて、洞察力を養う。	中間考查
	6月	評論2 「他者の声 実在の声」 「鏡の中の現代社会」	・筆者の述べる人間・社会について、的確に理解する。 ・他者や異文化世界についての文章を読み、さまざまな見方があることを知る。	
	7月	評論3 「世間のノアツション」 「水平のファッション」	・語句の意味や表現上の特色を捉え、自分の表現に役立てる。 ・人間におけるファッションや文学の役割について、複数の視点から考える。	期末考查
	8月			実力考查
二学期	9月	小説2 「舞姫」	・文語文で書かれた小説を読み、内容を的確に理解して味わう。 ・時代背景をふまえて登場人物の言動・心理を読み取り、人間の生き方について考えを深める。	
	10月	評論4 「グローバル化のゆくえ」 「原始社会像の真実」	・筆者の述べる人間・社会についての的確に理解する。 ・空間的、時間的に異なる世界について論じた文章を読み、思索を深める。	中間考查 実力考查
	11月	入試問題演習	センター試験対策及び個別試験対策 選択肢型の問題演習を中心に、入試問題対応力をつける。卒業考查	
	12月	入試問題演習	センター試験対策及び個別試験対策 選択肢型の問題演習を中心に、入試問題対応力をつける。	
三学期	1月	入試問題演習	センター試験対策及び個別試験対策 選択肢型の問題演習を中心に、入試問題対応力をつける。	
	2月	入試問題演習	個別試験対策 記述式の問題を中心に大学入試問題演習を行う。	
	3月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		○予習の段階で語句の意味は必ず辞書で調べておくこと。また、疑問点を明らかにしておこう。 ○授業では、内容を完全に理解できるように積極的に参加しよう。 ○復習では、要約に取り組むこと。内容が分かるまで辞書を引いたり、友達に聞いてリレし、納得するまで。 ○この1年は幅広く新聞や新書などなるだけ多くの本を読むことです。		
評価の観点		1 関心・意欲・態度…言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。 2 話すこと・聞くこと…目的や場に応じて話したり聞いたりして、自分の考えを深め発展させている。 3 書く能力…相手や目的、意図に応じた適切な表現による文書を書き、自分の考えを深め発展させている。 4 読む能力…文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読み、自分の考えを深め発展させている。 5 知識・理解…言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについて理解を深め、知識を身に付けている。		
評価の方法		①定期考查②実力考查③授業への取り組み④課題の提出状況⑤小テスト⑥ノートにおける予習復習の状況などから総合的に評価する。 *授業においての意見発表への意欲と的確さを求める。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
国語	古典B（文・理）	3	必修	一斉	普通	3

No. 3

古典B

教科書（発行所）	『精選古典B』（三省堂）
教科書以外の教材	『新精選古典文法』（東京書籍）『古文単語325』（尚文出版） 『必携新明説漢文』（尚文出版） 『最新国語便覧』（浜島書店）

目 標		古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広めることによって、人生を豊かにする態度を育てる。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	随筆『枕草子』 日記『蜻蛉日記』	・随筆文学や仮名日記文学のおもしろさを味わう。 ・筆者の人間を見る目、ものの感じ方、無常観、美意識などを読み取り、その特色を理解する。	実力考查
	5月	史伝1 『十八史略』『世説新語』	・歴史を書き記した文章を正確に読み解き、内容を理解する。 ・登場人物の描かれ方に着目し、それぞれの文章が有する文学性の豊かさを理解する。	中間考查
	6月	物語1 『源氏物語』	・物語の人間関係を把握し、そのうえで人物の心情を考える。 ・物語の世界、歴史の世界に興味を持ち、自ら学びを深めてゆく姿勢を持つ。	
	7月	史伝2 『史記』	・訓読のきまりに従って、正確に本文を読めるようにする。 ・リード文などを手がかりに、時代背景の概略をつかむ。 ・簡潔な叙事の中に読者を引きつける文章表現を読み味わう。	期末考查
	8月			実力考查
二学期	9月	物語2『大鏡』 評論『俊頼髓脳』	・人物関係や主語を押さえながら正しく口語訳できるようにする。 ・登場人物の心理描写を丁寧に読み、その心情を考える。 ・読解に必要な語彙・文法事項・敬語動詞等を再確認する。	
	10月	思想 『論語』『孟子』『荀子』 『莊子』『老子』	・孔子の求める「君子」像・政治のあり方について理解する。 ・孟子と荀子の主張と論じ方の特徴を捉え、何を説こうとしているのか理解する。	中間考查 実力考查
	11月	入試問題演習	センター試験対策及び個別試験対策 選択肢型の問題演習を中心に、入試問題対応力をつける。	卒業考查
	12月	入試問題演習	センター試験対策及び個別試験対策 選択肢型の問題演習を中心に、入試問題対応力をつける。	
三学期	1月	入試問題演習	センター試験対策及び個別試験対策 選択肢型の問題演習を中心に、入試問題対応力をつける。	
	2月	入試問題演習	個別試験対策 記述式の問題を中心に大学入試問題演習を行う。	
	3月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		○ 重要語句や文法事項は辞書や補助教材を活用し、事前に予習しよう。そのためには余白を十分とって本文を書写し、現代語訳に挑戦することが大切です。 ○ 授業では、予習段階で疑問に思ったことを質問したり、改めて考えたりしましょう。 ○ 復習では、音読を必ず行い、内容理解に努めましょう。		
評価の観点		○ 関心・意欲・態度…古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。 ○ 読む能力…古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深めようとしている。 ○ 知識・理解…伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身につけている。		
評価の方法		①定期考查②実力考查③授業への取り組み④課題の提出状況⑤小テスト⑥ノートにおける予習復習の状況などから総合的に評価する。 *授業においての意見発表への意欲と的確さを求める。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
国語	古典A（文選）	2	選択必修	一斉	普通	3

No. 4

古典A

教科書（発行所）	『古典A物語選』（大修館書店）
教科書以外の教材	『新精選古典文法』（東京書籍）『古文単語325』（尚文出版） 『必携新明説漢文』（尚文出版） 『最新国語便覧』（浜島書店）

目 標		古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広めることによって、人生を豊かにする態度を育てる。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	1 随筆 『徒然草』	・随筆文学のおもしろさを味わう。 ・筆者の人間を見る目、ものの感じ方、無常観、美意識などを読み取り、その特色を理解する。	実力考查
	5月	1 故事・逸話 『呂氏春秋』『韓非子』	・それぞれの小話の展開・内容を正しく把握する。 ・それぞれの小話が示す人物像や人物の価値観等を確認し、読み味わう。	中間考查
	6月	3 物語 『源氏物語』	・物語の人間関係を把握し、そのうえで人物の心情を考える。 ・物語の世界、歴史の世界に興味を持ち、自ら学びを深めてゆく姿勢を持つ。	期末考查
	7月	3 詩文 近体詩	・漢詩中の重要な語法・句法について理解する。 ・近体詩の規則を確認し、それぞれの作品の構成を把握し、その中で詩情がどのように表現されているか捉える。	
	8月			
二学期	9月	3 物語 『大鏡』『平家物語』	・人物関係や主語を押さえながら正しく口語訳できるようにする。 ・登場人物の心理描写を丁寧に読み、その心情を考える。 ・読解に必要な語彙・文法事項・敬語動詞等を再確認する。	中間考查
	10月	4 思想 『論語』『孟子』『荀子』『莊子』『老子』	・孔子の求める「君子」像・政治のあり方について理解する。 ・孟子と荀子の主張と論じ方の特徴を捉え、何を説こうとしているのか理解する。	
	11月	4 日記 『更級日記』『十六夜日記』	・作者の心情を読み取り、説明できるようにする。 ・作品の時代背景を知り、それがどう作品に反映しているのかを理解する。	卒業考查
	12月	入試問題演習	センター試験対策及び個別試験対策 選択肢型の問題演習を中心に、入試問題対応力をつける。	
三学期	1月	入試問題演習	センター試験対策及び個別試験対策 選択肢型の問題演習を中心に、入試問題対応力をつける。	
	2月	入試問題演習	個別試験対策 記述式の問題を中心に大学入試問題演習を行う。	
	3月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		○ 重要語句や文法事項は辞書や補助教材を活用し、事前に予習しよう。そのためには余白を十分とって本文を書写し、現代語訳に挑戦することが大切です。 ○ 授業では、予習段階で疑問に思ったことを質問したり、改めて考えたりしましょう。 ○ 復習では、音読を必ず行い、内容理解に努めましょう。		
評価の観点		○ 関心・意欲・態度…古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。 ○ 読む能力…古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深めようとしている。 ○ 知識・理解…伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身につけている。		
評価の方法		①定期考查②実力考查③授業への取り組み④課題の提出状況⑤小テスト⑥ノートにおける予習復習の状況などから総合的に評価する。 *授業においての意見発表への意欲と的確さを求める。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
地理歴史	世界史B	3	選択必修	一斉	普通科	3

No. 5

世界史B

教科書（発行所）	詳説世界史B（山川出版社）
教科書以外の教材	NEW STAGE 世界史詳覧(浜島書店) 新世界史研究ノート【標準編】（啓隆社）

目 標		世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史を関連づけながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考査等
一学期	4 月	第 7 章アジア諸地域の繁栄	アジア・ヨーロッパ・イスラーム世界をつないだ陸と海のネットワークの状況について考察し、世界の一体化への流れを把握する。明清帝国と朝鮮や日本との関係、東南アジア世界とイスラーム世界の動向を知り、16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特質を理解する。	実力考査
	5 月	第 8 章近世ヨーロッパ世界の形成 第 9 章近世ヨーロッパ世界の展開	ルネサンス、宗教改革、大航海時代、主権国家体制の成立、大西洋貿易を扱い、16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解する。	中間考査
	6 月	第 1 0 章近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第 1 1 章欧米における近代国民国家の発展	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀から19世紀にかけてのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解する。	
	7 月	第 1 2 章アジア諸地域の動揺	ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン帝国、ムガル帝国、清帝国及び日本などのアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアとヨーロッパの関係を理解する。	期末考査
	8 月	第 1 3 章帝国主義とアジアの民族運動	ヨーロッパ諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競合とアジア・アフリカの対応を扱い、19世紀後半から20世紀初頭の世界の支配・従属を理解する。	実力考査
二学期	9 月	第 1 3 章帝国主義とアジアの民族運動	ヨーロッパ諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競合とアジア・アフリカの対応を扱い、19世紀後半から20世紀初頭の世界の支配・従属を理解する。	
	1 0 月	第14章二つの世界大戦	20世紀の二つの世界大戦の背景やその後の社会への影響について理解する。	中間考査
	1 1 月	第15章冷戦と第三世界の独立 第16章現在の世界	第二次世界大戦後の世界情勢を、アメリカとソ連の対立（冷戦）を縦軸に、各地域の動向を横軸として学び、現在の世界情勢について考察する。	卒業考査
	1 2 月	総まとめ	演習を通しての復習	
三学期	1 月	総まとめ	演習を通しての復習	
	2 月			
	3 月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		・授業を重視し、毎時間集中力を持って臨む。課題等の提出は期限をしっかりと守って出す。 ・関係する書籍等も自主的に読み、歴史への興味・関心を持つ。 ・図表の写真・資料・地図等を積極的に利用し、多角的に学習する。		
評価の観点		①世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に課題を追求し、そのあり方について考察しようとしている。 ②世界の歴史から課題を見出し、現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ③世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 ④世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連づけて総合的に理解し、その知識を身につけている。		
評価の方法		・定期考査の成績は、全体評価の60％とする。 ・実力考査の成績は、全体評価の20％とする。 ・日常の授業中の態度、発表の仕方や内容、主体的な取り組みを全体評価の20％に取り入れる。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 6
地歴公民	日本史B	3	選択必修	一斉	普通科	3	日本史B

教科書（発行所）	詳説日本史B（山川出版社）
教科書以外の教材	新日本史要点ノート【応用編】（啓隆社） 新詳日本史（浜島書店） 要点整理 ゼミナール日本史（浜島書店）

目 標		我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
1 学期	4 月	第2章 律令国家の形成 3. 平城京の時代 4. 天平文化 5. 平安王朝の形成	古代国家の形成と展開、文化の特色とその成立の背景について理解する。	第1回実力考查
	5 月	第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士	東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや摂関政治とその時期に花開いた国風文化について理解する。	1学期中間考查
	6 月	第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭 2. 鎌倉幕府の成立 3. 武士の社会	武士の台頭など諸地域の動向に着目して、古代国家の推移、中世社会の萌芽について理解する。	
	7 月	4. 蒙古襲来と幕府の衰退 5. 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立	武士の土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立の背景について理解する。	1学期期末考查
	8 月			第2回実力考查
2 学期	9 月	2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場 第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権 2. 桃山文化	庶民の台頭と下剋上について理解する。武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景について理解する。 ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、織豊政権を軸に、文化の特色とその後の近代国家の形成過程を理解する。	
	10 月	3. 幕藩体制の成立 4. 幕藩社会の構造 第7章 幕藩体制の展開	織豊政権から、幕藩体制下の政治体制の成立について理解する。	2学期中間考查
	11 月	1. 幕政の安定 2. 経済の発展 3. 元禄文化	幕藩体制下の経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割、文化の特色に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて理解する。	第3回実力考查
	12 月	第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化	欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について理解する。	2学期期末考查
3 学期	1 月	総まとめ	演習を通しての復習	
	2 月	総まとめ	演習を通しての復習	
	3 月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		・授業を重視し、毎時間集中力を持って臨む。課題等の提出は期限をしっかりと守って出す。 ・関係する書籍等も自主的に読み、歴史への興味・関心を持つ。 ・図表の写真・資料・地図等を積極的に利用し、多角的に学習する。		
評価の観点		・我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に課題を追究し、その在り方について考察しようとしている。 ・我が国の歴史の展開から課題を見いだし、国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 ・我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連づけて総合的に理解し、その知識を身に付けている。		
評価の方法		評価の基準は定期考查となるが、出席状況、授業への取り組み、ノート・課題提出・実力考查などを適切に活用して総合的に行う。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
地歴	地理B	3	選択必修	一斉	普通	3

No. 7

地理B

教科書（発行所）	新詳地理B（帝国書院）・新詳高等地図（帝国書院）
教科書以外の教材	新編地理資料2015（とうほう） 新地理要点ノート（啓隆社） 地理用語集（山川出版社） 新地理の研究（啓隆社） 統計要覧2015（二宮書店）

目 標		現代世界の地理的事象を、系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
1 学期	4 月	Ⅲ. 資源と産業 iii. エネルギー資源・鉱産資源	世界のエネルギー資源・鉱産資源の生産と消費、工業の発展などを理解し、それぞれの現状と課題を考察する。	第 1 回実力考查
	5 月	iv. 工業の発展と立地 v. 地域開発		1学期中間考查
	6 月	Ⅳ. 村落・都市、都市問題 i. 村落 ii. 都市、都市問題	生活の場としての村落・都市の立地と発展、現代都市が抱える問題とその解決への取り組みについて考察する。	1学期期末考查
	7 月	v. 結びつきを強める現代世界 i. 国家・国家群	国家や国境、国家間の結びつきとその課題について考察する。 交通・通信の発達と貿易について考察する。	第2回実力考查
	8 月	ii. 交通・通信・貿易 Ⅵ. 地球的な課題		
2 学期	9 月	i. 環境問題 ii. 人口問題 iii. 人種・民族問題、生活と文化	相互に関連し、複雑化する全地球的規模の諸課題について理解し、その解決への取り組みについて考察する。	2学期中間考查 第3回実力考查
	1 0 月	Ⅶ. 世界の諸地域 i. アジア・アフリカ ii. ヨーロッパ iii. 北アメリカ iv. 南アメリカ・オセアニア	それぞれの地域の自然や人間生活の諸事象について多面的に考察し、各地域の多様性を理解する。	
	1 1 月			卒業考查
	1 2 月	総まとめ	問題演習	
3 学期	1 月	総まとめ	問題演習	
	2 月			
	3 月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		・用語を覚えるのではなく、なぜそうなっているのかの疑問を大切に、人に説明できるようになる。 ・丁寧な授業ノートを作ろう。ノートは自分に最も適した参考書になります。板書されたこと以外もメモしよう。 ・蛍光ペン、色鉛筆、ノリ、ハサミを準備する。見てわかるノートにするために、図・表などを効果的に書いていこう。 ・復習中心の学習をしよう。習った範囲を資料集やノートを見ながら自分で整理すると次の授業につながります。		
評価の観点		・現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。 ・現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ・地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。		
評価の方法		評価は定期考查・実力考查を基準とするが、出席状況、授業への取り組み、提出物なども含めて総合的に行う。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
公民	倫理	3	必修	一斉	普通	3

No. 8
倫理

教科書（発行所）	高校倫理（実教出版）
教科書以外の教材	テオリア最新倫理資料集（第一学習社）

目 標		人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成、人間としてのあり方生き方について思索を深めるとともに、人格形成に対する実践的意欲を高め、生きる主体として自己の確立・良識ある公民としての能力・態度を育てる。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	第1編第1章 青年期と人間としてのあり方・生き方	自己の生きる課題との関わりにおいて、青年期の意義と課題を理解すると同時に、豊かな自己形成に向けて主体的に考える。	実力考查
	5月	第1編第2章 人間としての自覚と生き方	人生における哲学・宗教・芸術の持つ意義などについて理解し、人間の存在や価値に関わる基本的な課題を探究することをおして、人間としての生き方・あり方について考えを深める。	中間考查
	6月			
	7月	第2編第1章 現代に生きる人間の倫理	人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間との関わり、民主社会における人間のあり方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身につけ、他者と共に生きる自己の生き方に関わる課題として考えを深める。	期末考查
	8月			実力考查
二学期	9月	第1編第3章 日本人としての自覚	日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、わが国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己との関わりにおいて理解し、国際社会に生きる主体性のある日本人としてのあり方・生き方について自覚を深める。	中間考查
	10月			実力考查
	11月	第1編第1・3章 課題、現代の諸課題と倫理	生命・環境・地域社会・情報社会・世界の様々な文化の理解、人類の福祉のそれぞれにおける倫理的課題を追求し、現代の生き方について自覚を深める。	卒業考查
	12月			
三学期	1月		センター試験に向けての問題演習	
	2月			
	3月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		授業をよく聞き、社会や日常生活と結びつけて主体的に考えるように努力する。ノートの空欄を埋めるだけでなく、板書事項をしっかりと理解できるように努力すること。		
評価の観点		①人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、意欲的に課題を追究し、その在り方について考察しようとしている。 ②他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ③青年期における自己の形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 ④青年期における自己の形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。		
評価の方法		興味関心・意欲を授業態度・提出物等から、思考・判断、資料活用力、知識理解、を定期試験・実力試験から判断し、評価する。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
公民	政治・経済	2	選択必修	一斉	普通	3

No. 9

政経

教科書（発行所）	最新政治・経済（実教出版）
教科書以外の教材	最新政治・経済資料集（第一学習社） センター試験政治・経済重要問題集（実教出版）

目 標		1. 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深化させる。 2. 現代の政治、経済、国際関係に関する興味・関心を引き出し、その客観的な理解をはかる。 3. 現代の政治・経済に関する諸課題に対する多様な見方・考え方を学び、その解決に向けて主体的に考える態度を養わせる。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	第1編 現代の政治 1. 現代国家と民主政治	日本国憲法の基本的原則についての認識を国民生活との関わりを通して深めさせ、民主政治に必要な要件を理解する。	実力考查
	5月	2. 日本国憲法と基本的人権		中間考查
	6月	3. 日本の政治制度と政治参加		
	7月	4. 現代の国際政治 5. 日本の平和主義と国際平和	これまでの国際秩序の形成の過程ととその維持の現状、国際連合の役割や、国際社会におけるこれからの日本の役割について考える。	期末考查
	8月			実力考查
二学期	9月	第2編 現代の経済 1. 経済社会の変容	経済体制の歴史的変遷を学び、経済のしくみを理解した上で日本の経済の歴史やその特徴、企業・労働・農業分野については現状や課題について考える。	
	10月	2. 現代経済のしくみ 3. 現代の日本経済と福祉の向上		中間考查
	11月	4. 現代の国際経済	国際経済の動向について理解を深め、国際経済における諸問題について考察を深める。	実力考查
	12月	第3編 現代社会の諸課題	政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代の政治や経済の諸課題を主体的に追究する態度を養う。	卒業考查
三学期	1月		センター試験に向けての問題演習	
	2月			
	3月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		授業の前に必ず、教科書を読んでおくこと。授業内容を現実の生活や、国際情勢と関連づけて捉える努力をする。新聞やニュース、インターネット等を利用し、世界の動きに興味・関心を持つ。		
評価の観点		①現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究し、その在り方について考察しようとしている。 ②現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ③現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 ④現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論について理解し、その知識を身に付けている。		
評価の方法		「関心・意欲・態度」を授業態度、提出物（課題・ノート）・発表などから、「思考・判断」、「資料活用の技能・表現」、「知識・理解」を定期試験・実力試験、小テスト、レポートなどから総合的に判断し、評価する。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学Ⅱ（文）	3	必修	習熟度別	普通	3

No. 10
数学Ⅱ（文）

教科書（発行所）	新編 数学Ⅱ（啓林館）
教科書以外の教材	

目 標		問題演習を通して，基礎力の充実と応用力の養成を図る。
学習のねらい	学習時期	学習内容と目標
	4月～5月	数学Ⅰ，数学A，数学Ⅱ，数学Bの復習 (1) 基礎力確認 (2) 実 力 養成 (3) 実践力完成
	1学期中間考査	
	6月～8月	
	1学期期末考査	
	9月～10月	
	2学期中間考査	
	11月	
定期考査	卒業考査	12月 1月
	12月	
	1月	
	1月	
定期考査	出題方針	類題を出題し授業で取り扱った問題の理解度と応用力をみる。
	1学期中間	Ⅰ・A，Ⅱ・Bの全範囲
	1学期期末	Ⅰ・A，Ⅱ・Bの全範囲
	2学期中間	Ⅰ・A，Ⅱ・Bの全範囲
	卒業	Ⅰ・A，Ⅱ・Bの全範囲
評価の観点		評価の観点 授業で取り扱った基本的な公式を理解し，それを使いこなせているか。 授業の予習・復習がきちんとされているか。 宿題などは期限を守って提出されているか。 授業は真剣な態度で臨んでいるか。
評価の方法		評価の方法 ○単元や各授業の学習過程で，評価の観点の4項目について，生徒のよい点や進歩の状況などを評価し，その累積と定期考査等の状況及び出席状況により各学期ごとにまとめる。 ○具体的な評価は，授業の中での観察，ノート，日々題，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。
先生からのアドバイス (予習・復習の方法，授業の受け方，ノートの取り方等)		まず自力で考え，わからない問題は教科書・参考書の例題・類題に同様の問題を探して再度挑戦する。できなかった問題は授業でノートをとって，後で再度取り組み解けるようにしておく。忘れたらまた覚え直す。ノートは後で書き込めるように十分なスペースをとっておく。

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学Ⅲ（理）	5	必修	少人数	普通	3

No. 11
数学Ⅲ（理）

教科書（発行所）		新編 数学Ⅲ（啓林館）
教科書以外の教材		チャート式 基礎と演習 数学Ⅲ
目 標		数学Ⅱの微分・積分法を基に、いろいろな関数における微分・積分法に発展させ応用について考察する。
学 習 の ね ら い	学習時期	学習内容と目標
	4月	第3章 数列の極限 第1節 無限数列 第2節 無限級数 様々な数列の極限を調べ、極限の概念の形成や拡張の方法に触れる。
	5月	第4章 関数の極限 第1節 分数関数と無理関数 第2節 関数の極限と連続性 様々な関数の極限を調べ、そのことによって関数の連続性について理解させる。
	1学期中間考査	
	6月～7月	第5章 微分法 第1節 微分と導関数 第2節 いろいろな関数の導関数 第3節 導関数の応用 第4節 いろいろな応用 微分の標準レベルの問題演習を通して、諸概念の確実な理解および、問題処理能力の育成を図る。
	1学期期末考査	
	8月～9月	第6章 積分法 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 面積 第4節 体積 第5節 曲線の長さ 積分の標準レベルの問題演習を通して、諸概念の確実な理解および、問題処理能力の育成を図る。
	10月～12月	微積分総合問題演習
定 期 考 査	2学期中間考査	
	卒業考査	微分、積分の標準レベルの問題演習を通して、諸概念の確実な理解および、問題処理能力の育成を図る。
	1月	発展演習
	出題方針	教科書の基本的な問題を中心とし、事象を数学的に考察し、多面的・発展的な考え方をみる応用問題を出題する。
	範囲	1学期中間 第3章 数列の極限 1学期期末 第4章 関数の極限、第5章 微分法 2学期中間 第6章 積分法 卒業 数学Ⅲ全般を通して、二次対策問題演習など
評価の観点		評価の観点
評価の方法		微分・積分法の公式を理解し、基本的な計算ができるか。 増減や凹凸を調べてグラフが描けるか。 直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができるか。 宿題など指示されたものを期限内にしっかりと提出できるか。 復習・予習をできる限り行って授業にのぞんでいるか。 真剣な態度で授業にのぞんでいるか。
		評価の方法
		○単元や各授業の学習過程で、評価の観点の4項目について、生徒のよい点や進歩の状況などを評価し、その累積と定期考査等の状況及び出席状況により各学期ごとにまとめる。 ○具体的な評価は、授業の中での観察、ノート、日々題、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。
先生からのアドバイス		数学は積み上げの学問だから、1時間でも欠席などがあるとわからなくなってしまう恐れがあるので、極力授業を欠かさないようにする。ノートは、後で書き込みができるようにスペースをとっておいた方がよい。グラフを描くときなど、なるべく定規などを使ってきれいで正確なものになるよう心がけた方がよい。微分・積分の計算はとにかく量をこなし、早くなれるように努めなければならない。
(予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方等)		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学B（文）	2	必修	習熟度別	普通	3

No. 12
数学B（文）

教科書（発行所）	新編 数学B（啓林館）
教科書以外の教材	

目 標		問題演習を通して、基礎力の充実と応用力の養成を図る。
学 習 の ね ら い	学習時期	学習内容と目標
	4月～5月	数学Ⅰ，数学A，数学Ⅱ，数学Bの復習 (1) 基礎力確認 (2) 実力養成 (3) 実践力完成
	1学期中間考査 6月～8月	
	1学期期末考査 9月～10月	
	2学期中間考査 11月	
	卒業考査 12月	
	1月	
定 期 考 査 範 囲	出題方針	類題を出題し授業で取り扱った問題の理解度と応用力をみる。
	1学期中間	Ⅰ・A，Ⅱ・Bの全範囲
	1学期期末	Ⅰ・A，Ⅱ・Bの全範囲
	2学期中間	Ⅰ・A，Ⅱ・Bの全範囲
	卒業	Ⅰ・A，Ⅱ・Bの全範囲
評 価 の 観 点 評 価 の 方 法		評価の観点
		授業で取り扱った基本的な公式を理解し、それを使いこなせているか。 授業の予習・復習がきちんとされているか。 宿題などは期限を守って提出されているか。 授業は真剣な態度で臨んでいるか。
		評価の方法
先生からのアドバイス (予習・復習の方法，授業の受け方，ノートを取り方等)		まず自力で考え，わからない問題は教科書・参考書の例題・類題に同様の問題を探して再度挑戦する。できなかった問題は授業でノートをとって，後で再度取り組み解けるようにしておく。忘れたらまた覚え直す。ノートは後で書き込めるように十分なスペースをとっておく。

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学B（理）	2	必修	習熟度別	普通	3

No. 13
数学B（理）

教科書（発行所）	新編 数学B（啓林館）
教科書以外の教材	

目 標		問題演習を通して、基礎力の充実と応用力の養成を図る。	
学 習 の ね ら い	学習時期		学習内容と目標
	4月～5月		数学Ⅰ，数学A，数学Ⅱ，数学Bの復習 (1) 基礎力確認 (2) 実力養成 (3) 実践力完成
	1学期中間考査		
	6月～8月		
	1学期期末考査		
	9月～10月		
	2学期中間考査		
	11月		
	11月～12月		
卒業考査 1月			
定 期 考 査	出題方針		類題を出題し授業で取り扱った問題の理解度と応用力をみる。
	範 囲	1学期中間	Ⅰ・A，Ⅱ・Bの全範囲
		1学期期末	Ⅰ・A，Ⅱ・Bの全範囲
		2学期中間	Ⅰ・A，Ⅱ・Bの全範囲
		卒業	Ⅰ・A，Ⅱ・Bの全範囲
評 価 の 観 点	評価の観点		
	授業で取り扱った基本的な公式を理解し、それを使いこなせているか。 授業の予習・復習がきちんとされているか。 宿題などは期限を守って提出されているか。 授業は真剣な態度で臨んでいるか。		
	評価の方法		
評 価 の 方 法		○単元や各授業の学習過程で、評価の観点の4項目について、生徒のよい点や進歩の状況などを評価し、その累積と定期考査等の状況及び出席状況により各学期ごとにまとめる。 ○具体的な評価は、授業の中での観察，ノート，日々題，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。	
先生からの アドバイス (予習・復習の方法，授業の受け方，ノートの取り方等)		まず自力で考え，わからない問題は教科書・参考書の例題・類題に同様の問題を探して再度挑戦する。できなかった問題は授業でノートをとって，後で再度取り組み解けるようにしておく。忘れたらまた覚え直す。ノートは後で書き込めるように十分なスペースをとっておく。	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
理科	物理（理）	5	選択必修	一斉	普通	3

No. 14
物理(理)

教科書（発行所）	総合物理1・総合物理2（数研出版）
教科書以外の教材	物理研究ノート（博洋社） セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）

目 標		物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
学期	学習時期	学習内容と目標
一 学 期	4 月	第5章 円運動と万有引力 等速円運動、単振動、万有引力について学ぶ。また、見かけの力である慣性力について学び、運動のとりえ方を広げ、具体的な問題に適用できるようになる。
	5 月 中間考査	第2編 熱と物質 熱と熱量について復習し、ボイル・シャルルの法則、理想気体の状態方程式、気体の分子運動論を通して、気体分子の運動エネルギーは、絶対温度に比例することを学ぶ。また、気体のモル比熱を学び、熱力学第一法則からマイヤーの関係も扱う。それらを利用して気体の状態変化の理解を深める。
	6 月	第3編 波（総合物理2） 第1章 波の性質 第2章 音 波の性質を復習し、音のドップラー効果の理解を深める。 第3章 光 波の具体例として光を扱い、光の反射、屈折、回折、干渉及び絶対屈折率について学ぶ。
	7 月 期末考査	第3章 光 凸レンズ、凹レンズを通る光の性質を理解し、レンズが作る像について理解を深め、写像公式を学ぶ。 第4編 電気と磁気 第1章 電場 導体や不導体と電場・電位の関係を理解し、電気機器に含まれるコンデンサーの仕組みや特徴を学び、様々な回路についてコンデンサーの特徴を理解する。
	8 月 実力考査	第2章 電流 抵抗に流れる電流の性質、電気とエネルギー、様々な直流回路の特徴について理解を深める。 オームの法則、抵抗率と温度係数、ジュール熱、直列・並列接続、電流計・電圧計、キルヒホッフの法則、電池の起電力、ホイートストンブリッジ、非直線抵抗、コンデンサーを含む回路、半導体のしくみ 第3章 電流と磁場 磁気現象を説明する基本概念を学び、理解を深める。磁気力、磁場、磁力線、電流がつくる磁場
二 学 期	9 月	第3章 電流と磁場 磁気現象を説明する基本概念を元に磁気力による効果を学び、理解を深める。電磁力、フレミングの左手の法則、磁束密度、電荷が磁場内で受けるローレンツ力、ホール効果、サイクロトロン 第4章 電磁誘導と電磁波 電磁誘導の現象を元に、様々な現象を理解する。ファラデーの電磁誘導の法則、磁場を横切る導線に生じる起電力、ローレンツ力と誘導起電力、渦電流について学ぶ。
	10 月 中間考査 実力考査	第4章 電磁誘導と電磁波 交流の発生について学び、コイルの自己誘導、相互誘導、変圧器、交流回路の表し方、電気振動について学ぶ。電磁波の種類・発生についても学ぶ。 第5編 原子 第1章 電子と光 電子の正体とその性質、比電荷、電気素量について学ぶ。 光電効果を通して光の粒子としての性質を学ぶ。X線の正体は電磁波であり波動性があるので、ブラッグ反射が生じる。しかし、粒子性もありコンプトン効果が生じることを理解する。また、ドブロイ波長などを通して、粒子と波動の二重性について学ぶ。
	11 月 卒業考査	第2章 原子と原子核 水素原子ボーアモデルの理論を学び、量子化という概念を理解する。 基本的な放射線の性質と利用について学ぶ。 原子核反応の基本概念、質量欠損の意味を理解し、核エネルギーの概念を理解する。
	12 月	大学入試センター試験対策 センター試験にむけて、物理のマーク演習
	1～2 月	大学入試センター試験および二次試験対策 センター試験後は、国公立大学二次試験にむけて、物理の演習。（記述型）
先生からのアドバイス 授業の進め方 （予習・復習の仕方等）		日頃から新聞、ニュースなどで物理的な話題に関心を示し創造性豊かな人間であるように心がけよう。 重要なのは、①授業、②授業の復習、③日課を真摯に取り組み、訂正までしっかり取り組む である。 復習は学習したその日に必ず行い、覚えるべき内容はその日に覚える努力をすること。日課を解く・教科書や研究ノートの問題を解くことで、自分が理解しているか図ることができる。授業ノートは要点を中心にし、授業での説明を聞き漏らさないこと。同じ授業は二度とできない。肝に銘じよ。その日のうちに理解する意識が重要である。
評価の観点		・ 関心・意欲・態度：（授業時の様子や、日課の取り組み等） ・ 思考・判断・表現：（授業時の様子や、日課の取り組みの様子、考査等） ・ 観察・実験の技能：（授業時の様子や、考査等） ・ 知識・理解：（授業、日課の取り組み、提出物、考査等）
評価の方法		○ 物理現象に対する日頃からの興味関心や態度を、授業への参加意欲から評価する。 ○ 単元ごとの復習をきちんとこなしているかを確認するために日課の提出を求める。 ○ 定期考査では基本事項、物理現象、物理的な考え方の定着度を測る問題を出題する。 ○ 実力考査では、基本事項を幅広い分野から再度出題するとともに、思考力、計算力をみる。

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
理科	化学（理系）	3	選択履修	一斉	普通	3

No. 15

化学(理)

教科書（発行所）	啓林館 化学（２年次使用したもの）
教科書以外の教材	2015 セミナー化学基礎＋化学（２年次使用したもの）（第一学習社） 2015 化学研究ノート（２年次使用したもの）（博洋社） 改訂版フォトサイエンス化学図録（２年次使用したもの）（数研出版） 新リピートノート化学⑤（浜島書店）

目 標		4. 有機化合物の性質や反応を探究し、有機化合物の分類と特徴が理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。 5. 高分子化合物の性質や反応を探究し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴が理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考査等
一学期	4 月	第4部 有機化合物 第1章 有機化合物の特徴	有機化合物と無機化合物の違いについて理解する。 有機化合物の多様性と特徴を理解する。 成分元素の確認と元素分析について理解する。	実力考査
	5 月	第2章 脂肪族炭化水素	アルカン・アルケン・アルキンの構造を理解する。 構造異性体・立体異性体を理解する。 マルコフニコフの法則について理解する。	中間考査
	6 月	第3章 酸素を含む脂肪族化合物	アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトン・カルボン酸について理解する。 エステル・油脂について理解する。	
	7 月	第4章 芳香族化合物	ベンゼンの構造を知り、芳香族化合物の特性を理解する。 フェノール類・芳香族カルボン酸・アミン・アゾ化合物について理解する。	期末考査
	8 月	第5章 生活と有機化合物 第5部 高分子化合物 第1章 高分子化合物の特徴	医薬品・染料・洗剤に用いられる有機化合物について理解する。 高分子化合物の分類と特徴について理解する。 重合のしくみについて理解する。	実力考査
二学期	9 月	第2章 合成高分子化合物 第3章 天然高分子化合物	合成繊維・プラスチック・ゴムについて理解する。 糖類・タンパク質・核酸・繊維について理解する。	
	10 月	第4章 生活と高分子化合物	衣料や高分子化合物の利用状況について知る。	中間考査 実力考査
	11 月～	11 月～ センター対策		卒業考査
三学期	1 月			
	2 月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		・授業を重視し、板書はスピーディーに行う。 ・先生の話をよく聞いて、重要と思われるものはメモをとる。 ・日々題を活用した復習を行い、分からないものをそのままにしておかない。 ・課題等の提出物は必ず期限内に出す。 ・教材の忘れ物をしない。		
評価の観点		①化学に対する関心、意欲、態度。 （常に向上心を持って、ひたむきにそして誠実に努力する姿勢を大切にしたい。） ②化学に対する思考、判断、表現力。 （ただ単に暗記するのではなく、常に関連分野とのつながりを考え、その意味を理解するようにしたい。）		
評価の方法		●下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、物理への関心等で判断する。評価の観点のうち、特に関心・意欲・態度の項目を評価する。 (2)ノートの記載内容 授業内容を適切にまとめているか、科学的・化学的な思考ができていないか等を評価する。 (3)観察・実験等 観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書等から評価する。 (4)教科書・問題集の問題 各問題への取り組み、取り組んだ内容から評価する。 (5)実力・定期考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、思考・判断、知識・理解に関する配分が最も大きい。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
理科	生物基礎（文）	2	選択必修修	一斉	普通	3

No. 16

生物基礎(文)

教科書（発行所）	高等学校理科用 生物基礎（東京書籍）
教科書以外の教材	ニューステージ 新生物図表 生物基礎研究ノート（博洋社） アクセス生物基礎

目 標		1 生物や生命現象の持つ多様性を踏まえつつ、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 2 遺伝子・健康・環境など日常生活や社会に関わるテーマを通して、生物や生命現象に対する興味・関心を高める。 3 観察、実験を通して生物や生命現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 4 生物や生命現象の中から問題や課題を見出し、観察、実験などを通して探究する姿勢を身につける。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4 月	第 4 編生物の多様性と生態系	・集団として生命をとらえ、さらに環境を含めた視野で自然界を理解する。	中間 考 査
	5 月		・植生と環境とのかかわりを理解する。 ・バイオームの特徴を理解し、グラフとしてそれを把握できる。	
	6 月	2 章 気候とバイオーム	・世界各地や日本の植生が気候と密接に関係し、分布の様子に各地域に特徴が見られることを理解する。	期 末 考 査
	7 月		・高度によりバイオームが異なってくることを、日本の例をもとに理解する。	
	8 月	3 章 生態系とその保全	・生態系と生物は密接な関係を持ち、生態系を維持することの重要性を理解する。 ・生態系の保持に積極的に関わろうとする姿勢をもつ。	第2回実力
二学期	9 月	生物基礎の復習	・演習による復習	中間 考 査
	1 0 月	・復習・問題演習	・基本事項の確認・整理、応用力・実践力を養う。	
	1 1 月	・復習・問題演習	・基本事項の確認・整理、応用力・実践力を養う。	期 末 考 査
	1 2 月	・復習・問題演習	・基本事項の確認・整理、応用力・実践力を養う。	
三学期	1 月	・復習・問題演習	・基本事項の確認・整理、応用力・実践力を養う。	
	2 月			
	3 月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		予習よりも復習を重視してください。ノートは黒板に板書したことだけではなく、具体例など口頭での説明もメモを取るとういでしょう。生物は暗記科目だと考えている生徒もいますが、暗記では絶対に点は取れません。入試では論理的思考が問われます。常に内容を理解し、その理由や意義を考えるようにしてください。資料集の活用も重要です。		
評価の観点		○生物学に対する関心、意欲、態度。 ○基礎的知識の習得 ○科学的、論理的な思考力 (ただ単に暗記するのではなく、常に関連分野とのつながりを考え、その意味を理解して欲しい。)		
評価の方法		定期考查、実力考查、課題提出などの提出状況 (課題提出は期限を守る。ただ終わらせばよいという考えではなく、確実に理解しながら取り組んで欲しい。)		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 17
理科	生物（理）	5	選択必修	一斉	普通	3	生物(理)

教科書（発行所）	生物（東京書籍）
教科書以外の教材	生物総合資料（実教出版社） 実践アクセス 総合生物 研究ノート（博洋社）

目 標		2年次に引き続き、身近なことから生物現象に関する課題を発見し、生物学的な探究の過程を通して、科学的な思考力、判断力、表現力を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一 学 期	4 月	第3編 生殖と発生 1章 生物の生殖と配偶子の形成 2章 動物の発生	有性生殖のしくみと染色体構成について理解する。 減数分裂による精子と卵形成と、受精について理解する。	第1回実力
	5 月	3章 動物の発生のしくみ 4章 発生をつかさどる遺伝子	動物の発生の様子と、器官形成の過程を理解する。 細胞の分化と形態形成のしくみを理解する。	中間考查
	6 月	5章 植物の発生 第4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激の受容と反応	植物の配偶子形成・受精・形態形成を理解する。 外界の刺激を受容し、神経系を介して反応することを理解する	期末考查
	7 月	2章 動物の行動 3章 植物の環境応答	動物個体の行動について理解する。 植物が環境変化に反応するしくみを理解する。	
	8 月	第5編 生態と環境 1章 個体群と生物群集	個体群とその変動、生物群衆の成り立ちを理解する。	第2回実力
二 学 期	9 月	2章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 3章 生態系と生物多様性	物質生産とエネルギー効率について理解する。	中間考查
	1 0 月	第6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の進化 2章 進化のしくみ	生命の起源と生物進化の道筋について理解する。	
	1 1 月	3章 生物の系統 問題演習（センター対策）	生物はその系統に基づいて分類できることを理解する。 大学入試センター試験対策センター試験にむけて、マーク問題演習	卒業考查
	1 2 月	問題演習（センター対策）		
三 学 期	1 月	問題演習（センター対策） 問題演習（個別試験対策）		
	2 月	問題演習（個別試験対策）	大学等の個別試験に向けての、問題演習	
	3 月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		予習よりも復習を重視してください。ノートは黒板に板書したことだけではなく、具体例など口頭での説明もメモを取るといいでしょう。生物は暗記科目だと考えている生徒もいますが、暗記では絶対に点は取れません。入試では論理的思考が問われます。常に内容を理解し、その理由や意義を考えるようにしてください。		
評価の観点		○生物学に対する関心，意欲，態度。 ○科学的，論理的な思考力 (ただ単に暗記するのではなく，常に関連分野とのつながりを考え，その意味を理解して欲しい。)		
評価の方法		○定期考查，実力考查，課題などの提出。 (課題提出は期限を守る。ただ終わらせばよいという考えではなく，確実に理解しながら取り組んで欲しい。)		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
理科	地学基礎	2	必修	一斉	普通科	3

No. 18

地学基礎

教科書（発行所）	地学基礎（啓林館）
教科書以外の教材	地学基礎研究ノート（博洋社）地学基礎課題帳（鹿児島県高等学校理科教育研究会地学部会） ニューステージ新地学図表（浜島書店） セミナー地学基礎（第一学習社）

目 標		・「地学基礎」の基礎事項の確認と入試に対応できる学力を養成する。 ・「地学基礎」で学んださまざまな知識を活かし、将来に活用する能力と生きる力、併せてその態度を養う。 ・日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高める。 ・地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		
学期		学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	第1部 固体地球とその変動	・プレートの分布と運動およびプレート運動に伴う大地形の形成について理解させる。 ・火山活動と地震の仕組みについて理解させる。	第1回実力考查
	5月	第2部 移り変わる地球	・地層が形成される仕組みと地質構造について理解させる。 ・古生物の変遷と地球環境の変化について理解させる。	中間考查
	6月	第3部 大気と海洋	・大気の構造と地球全体の熱収支について理解させる。 ・大気の大循環と海水の運動およびそれらによる地球規模の熱の輸送、日本で見られる季節の気象について理解させる。	期末考查
	7月	第4 宇宙の構成	・太陽系の誕生、太陽系の天体の特徴を理解させる。 ・太陽の表面の現象、太陽の太陽のエネルギー源、太陽の誕生と進化について理解させる。	
	8月		・銀河と銀河の分布、宇宙の誕生について理解させる。	第2回実力考查
二学期	9月	第5 自然との共生	・日本の自然環境について理解させ、その恩恵や災害など自然環境と人間生活とのかかわりについて考察させる。	中間考查 第3回実力考查
	10月	復習・問題演習	・基本事項の確認・整理、応用力・実践力を養う。	
	11月	復習・問題演習	・基本事項の確認・整理、応用力・実践力を養う。	卒業考查
	12月	復習・問題演習	・基本事項の確認・整理、応用力・実践力を養う。	
三学期	1月	復習・問題演習	・基本事項の確認・整理、応用力・実践力を養う。	
	2月	復習・問題演習	・基本事項の確認・整理、応用力・実践力を養う。	
	3月			卒業式
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		・学習の基本は予習・授業・復習である。特に授業に集中し、復習(復習ノート)で基本事項をしっかり押さえる。 ・日常生活で起こるさまざまな自然現象に興味・関心をもち、その法則性について考える態度をもつ。 ・図表・写真等と関連づけて読み、基本事項をおさえ、疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつ。 ・日ごろから地球・自然・宇宙に関するニュース・情報に関心をもつ。		
評価の観点		・関心・意欲・態度（授業時の学習態度、提出物） ・思考・判断・表現（定期考查・実力考查・レポート・提出物） ・観察・実験（観察・実験に対する姿勢、提出物） ・知識・理解（定期考查、実力考查、小テスト、提出物）		
評価の方法		・上記の4つの観点に基づいて、定期考查・実力考查、提出物(復習ノート、課題)等の提出状況、出欠状況等を総合的に評価します。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
保健体育	体 育	2	必修	種目選択	普通	3

No. 19

体育

教科書（発行所）	ステップアップ高校スポーツ 2014 （大修館書店）
教科書以外の教材	

目 標		1. 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動し、公正、協力、責任などの態度を身につける。 2. 自己やグループの能力や運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫し、必要な技能や体力を高めるために運動の合理的な行い方を身につける。 3. 選択した運動種目の技術や戦術及び規則などを理解し、ゲーム・審判ができるようになる。 4. 現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、スポーツとのかかわり方や豊かなスポーツライフを設計し実践していく方法を身につける。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
1 学期	4月～7月	①オリエンテーション ②体づくり運動 ③新体力テスト ④選択A ソフトボール・ソフトテニス バドミントン	「体育学習」の意義や内容、評価の方法を理解することで、活動内容が深まっていく過程とさらに楽しむための工夫ができる。 自己の体力や生活に応じて、心と体をほぐしたり体力を高める運動を行うことで、健康を保ったり体力の向上が図れる。 新体力テストをととして、自己の現在の体力を把握し、よりよく体力を高めるために自己の生活の中で計画的に実践していく資質や能力を養うことができる。 自分の興味・関心に沿った種目を選択し、基本的技術の習得やグループの目標・計画を立案・実行・修正の過程の中でお互い協力しながら学習を進めていく能力を養う。	
2 学期	8月～12月	⑤陸上A 短距離走・リレー ⑥選択B テニス・バスケットボール サッカー・バドミントン ⑦陸上B 長距離走	各目の能力に応じた走法をマスターし、記録向上や競争の楽しさを味わい各種目特有の技術を高めることができる。 自分の興味・関心に沿った種目を選択し、基本的技術の習得やグループの目標・計画を立案・実行・修正の過程の中でお互い協力しながら学習を進めていく能力を養う。 効率のよいフォームをマスターし、ペース配分などを工夫し記録向上や競争の楽しさを味わうことができる。	
3 学期	1月	⑧選択B テニス・バスケットボール サッカー・バドミントン	自分の興味・関心に沿った種目を選択し、基本的技術の習得やグループの目標・計画を立案・実行・修正の過程の中でお互い協力しながら学習を進めていく能力を養う。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		1. 運動の楽しさを味わうために自ら進んで活動することが求められています。運動が苦手な人も、これまでの経験からくる運動嫌いのイメージや苦手意識に固執することなく、新たな気持ちで授業に臨むことから始めましょう。 2. 自分と仲間の持つ課題を見つけようとする意欲が大切です。自分だけに留まらず仲間の気持ちや体の状態に目を向け、問題点や解決方法を見つける努力をしましょう。また、自分と仲間の現状を見つめることができる感性を身につけましょう。 3. 体育にとっての「学力」とは、基礎的な知識・技能のもとに意欲を持って「スポーツを実践する力」です。日頃のスポーツ実践に心掛けましょう。 4. 授業はチャイムと同時に始まります。移動は休み時間に完了し、見学者は授業前に担当者に申し出て指示を受けます。また、服装は学校指定の体育服を着用し、こまめな洗濯で衛生面にも留意しましょう。貴重品の管理は自己管理が原則です。		
評価の観点		「関心・意欲・態度」（30％）・・・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動をしようとしているか。公正、協力、責任などの社会的態度が身についているか。健康や安全に留意して運動しようとしているか。 「思考・判断」（20％）・・・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出しているか。課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫しているか。 「運動の技能」（30％）・・・自己の能力と運動の特性に応じた課題解決を目指して運動を行い、技能を高めているか。 「知識・理解」（20％）・・・社会の変化とスポーツ・運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身につけているか。		
評価の方法		4つの観点に基づいて評価された前・後期と各領域（各運動や理論）の成績及び体育行事の取り組み方・結果分析等を総合して学年の成績とします。学年の評定は、他教科に準じて5段階によって示されます。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
芸術	音楽Ⅲ	Ⅱ	選択必修	一斉	普通	3

No.20

音楽Ⅲ

教科書（発行所）	Joy of Music（教育芸術社）
教科書以外の教材	Music Note（九州高校音楽研究会） Classic Guitar Course 1（ヤマハ ミュージックメディア）

目 標		音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽および芸術を愛好する心情を育てるとともに、芸術に対する感性を高め、音楽の諸能力を伸ばし芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一 学 期	4 月	オリエンテーション 1 授業で取り組む活動内容を検討し、決定する。 オリエンテーション 2 年間を通してパフォーマンス以外の活動内容を知る。。		実力考查
	5 月	音楽理論 1 音楽Ⅰ・Ⅱで学習したものを基礎に、さらに高度な内容を学習する。 音楽史 1 これまでに学習した世界の音楽を基礎に、その背景にある歴史を学習する。		中間考查
	6 月	パフォーマンス 1 個人、グループに分かれ、それぞれの目標に向かって活動する。 音楽理論 2 高度な内容を学習することにより、より高い演奏能力を身につけることに役立てる。		
	7 月	パフォーマンス 2 個人、グループに分かれ、それぞれの目標に向かって活動する。 音楽史 2（鑑賞）世界の音楽を基礎にその背景にある歴史を学習し、鑑賞の能力を高める。 期末考查 パフォーマンス 3 それぞれの目標に向かって活動し、実技テストへ向けての準備をする。		
	8 月	実技テスト		実力考查
二 学 期	9 月	パフォーマンス 4 個人・グループに分かれ、それぞれの後期の目標に向かって活動する。		
	10 月	パフォーマンス 5 それぞれの目標に向かって活動するとともに、実技テスト及び録音の準備をする。		中間考查 実力考查
	11 月	パフォーマンス 5 それぞれの目標に向かって活動するとともに、実技テスト及び録音の準備をする。		期末考查
	12 月	実技テスト及び相互鑑賞 舞台芸術～オペラ・ミュージカルに親しむ（鑑賞）		
三 学 期	1 月	舞台芸術～歌舞伎に親しむ（鑑賞）		実力考查
	2 月			学年末考查
	3 月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		より高い能力を身に付けることを期待しますが、自分にあったペースで焦らずに、じっくりと学習してください。 但し、自分の能力を過小評価しないように、目標を設定しながら授業に臨んでください。		
評価の観点		①関心・意欲・態度：音楽に関心を持ちながら、主体的に学習に取り組む姿勢ができているか。 ②表現の創意工夫：音楽の要素、またその働きを感受し、表現を工夫し、表現の意図が明確であるか。 ③表現の技能：創意工夫を生かし、表現する技能が身に付いた創造的表現をしているか。		
評価の方法		前・後期ともに、パフォーマンスの発表を授業の中で実施し、評価します。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
美術	美術Ⅲ（文	2	選択必修	一斉	普通	3

No. 21

美術Ⅲ

教科書（発行所）	高校美術3（日文）
教科書以外の教材	

目 標		美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。			
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など		提出物
一学期	4月	オリエンテーション 絵画「幾何形体デッサン」 絵画「石膏デッサン」 絵画「静物デッサン」	幾何形体およびギリシャ・ヘレニズム・ローマ時代等のアカデミックな人体彫刻を写生することにより、当時の美意識や、対象の捉え方を制作（デッサン）の中で体験しながら学習する。 ・構図法 ・比率を合わせる ・動勢・傾き・流れを捉える ・明暗法・空間を捉える ・質感を表現する ・作品鑑賞		スケッチブック・ファイル・作品提出
	5月				
	6月	絵画 「自主制作・構想に基づく自由画制作（油彩画）」	これまで学習してきた美術に関わる造形的な知識・経験を活かし、自身の構想に基づく自由画（油彩画）を制作する。自主制作を通して、自身の内面を見つめ、社会に対してどのようなことを表現することができるかを考える。各自資料として作品に関わるスケッチや写真、観察に基づくデッサン等を作品制作資料として持参する。 ・現代美術作家（作品）の観察 ・キャンバス制作		
	7月	（美術系進路選択者は、試験課題を想定した作品制作）	・資料収集（スクラップ） ・ブレインストーミング ・アイデアスケッチ ・構図の検討（エスキース） ・配色・色彩計画の検討 ・作品の主題決定		
	8月	粘土、色面構成、立体造形等…	・油彩画制作 ・額装 ・仕上げ ・作品鑑賞		
二学期	9月				スケッチブック・ファイル・作品提出
	10月	アニメーション 「ソーマトロープを制作しよう」	人間の残像や錯視、ものの見え方を利用したアニメーションの原理や、生活の中に用いられているアニメーションの働きを知る。また、自然現象や物理法則に基づく、様々な動きのバリエーションを利用したアニメーションの制作を通して、連続する動きを一連の流れとして捉えられるようにすることで、時間の経過の中で変化する対象を観察し、動きの予測が立てられるようにする。 ・アニメーション作品鑑賞 ・アニメーションの原理 ・アニメーションと物理法則 ・アイデアスケッチ ・制作（アクリルガッシュ着彩） ・作品鑑賞		
	11月				
	12月				
三学期	1月		・様々な動きの種類 ・モチーフ、キャラクターの設定		スケッチブック・ファイル・作品提出
		1年間の学習のまとめ			
	2月 3月				
先生からのアドバイス 授業の進め方 （予習・復習の仕方等）		①表現や鑑賞の活動において、自身の考えや感想を文章や言葉にすることを心がけましょう。 ②毎時間集中して計画的に制作に取り組むことが必要です。授業を楽しむ姿勢を持ちましょう。 ③制作に行き詰まったり、疑問点が出てきた場合は、積極的にアドバイスをもらいましょう。 ④準備や片付けも授業の一環です。道具は大切に扱い、もとあった場所に整然と美しく片付けましょう。			
評価の観点		①関心・意欲・態度…課題内容に対し、興味関心を持ち、主体的に活動に取り組むことができたか。 ②発想や構想の能力…表現形式の特性を生かし、工夫して創造的な表現の構想を練ることができたか。 ③創造的な技能…必要な技能を身に付け、感性を働かせ制作意図にあった方法を創意工夫できたか。 ④鑑賞の能力…作品の良さや美しさ、心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、味わうことができたか。			
評価の方法		評価の観点を基に、授業への取り組み（出席状況、授業態度、活動への参加状況）、授業作品・スケッチブック（制作意図の理解、創意工夫、感性を働かせた表現等）、ファイル提出（授業に関する反省プリント、鑑賞）を総合的に判断して評価する。			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 22
芸術	書道Ⅲ	2	選択必修	一斉	普通科	3 年	書道Ⅲ

教科書（発行所）	「 書 Ⅲ 」 （教育図書）
教科書以外の教材	

目 標			(1) 書道に対する興味・関心を深め、意欲的に取り組む態度を身につけます。 (2) 書道の基礎的・基本的な知識や技術を身につけるとともに、さまざまな表現技法を学びます。 (3) 多くの作品を鑑賞しながら書作品の良さと美しさを理解し、書道を愛好する心情を育みます。		
学期	月	時間	学 習 内 容 と 学 習 の ね ら い		備 考
一 学 期	4	2	1 授業ガイダンス ・書道Ⅲの学習内容、授業の進め方、取り組む姿勢について理解します。 ・用具・用材について理解します。		個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。 個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。
	5		表 現	鑑 賞	
	4		2 硬筆の学習 ・硬筆の特性を理解し、実用書を学習します。		
	6	20	3 甲骨文・金文・木簡・隸書の学習 ・古典を通して学習します。 ・さまざまな表現技法を習得します。		
	7		古典を鑑賞し、その特徴を理解します。 ・ 甲骨文 ・ 散氏盤 ・ 郭店楚簡 ・ 長沙帛書 ・ 礼器碑 ・ 李柏尺牘 ・ 居延漢簡 ・ 敦煌漢簡		
二 学 期	9	20	4 さまざまな楷書・行書・草書の学習 ・古典を通して学習します。 ・さまざまな表現技法を習得します。		個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。 清書作品を提出します。
	10		古典を鑑賞し、その特徴を理解します。 ・ 薦季直表 ・ 楽毅論 ・ 高貞碑 ・ 枯樹賦 ・ 李嶠詩 ・ 離洛帖 ・ 草書千字文 ・ 李白憶旧遊詩卷		
	11	10	5 刻字の学習 ・漢字1字を石膏板に刻字します。		
	12		参考作品を鑑賞し、全体の構成や彫り方の技法を理解します。		
三 学 期	1	8	6 創作の学習（漢字仮名交じり文） ・漢字仮名交じりの語句を色紙に書く。		個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。 書論についての感想プリントを提出します。 感想の発表やまとめプリントを提出します。
	2	4	7 書論の学習 ・さまざまな書論について理解します。		
	3	2	8 まとめ ・制作した自分の作品を通して、授業の成果を振り返ります。 ・自分の作品やお互いの作品をじっくり鑑賞します。		
先生からのアドバイス (授業の進め方)			書道では主に毛筆の特性を生かしてさまざまな表現の学習をします。毛筆で文字を書く学習を一生懸命取り組むことにより、次第にその扱いにも慣れてきて多様な表現ができるようになり、書道が一層楽しくなってきます。積極的な粘り強い取り組みが望まれます。		
評価の観点			(1) 書への関心・意欲・態度（書への関心を持ち、主体的かつ意欲的に取り組もうとしている。） (2) 書表現の構想と工夫（自らの感性と意図に基づいて構想し、表現を工夫している。） (3) 創造的な書表現の技能（書のさまざまな表現技法を生かし、効果的な表現をしている。） (4) 鑑賞の能力（書の伝統や文化について理解し、書の良さと美しさを味わっている。）		
評価の方法			(1) 授業中の取り組む姿勢や意欲などを評価します。 (2) 添削等の個別指導をおこない、練習の過程を評価します。 (3) 提出した清書作品で、表現技法の理解や到達度、作品としての完成度を評価します。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	4	必修	一斉	普通	3

No.23

コミュⅢ

教科書（発行所）	Compass English Communication Ⅲ(大修館)
教科書以外の教材	英作基本文例600, ブレイクスルー総合英語（美誠社） ユメタン1（アルク）, ライトハウス英和辞典（研究社）

目 標		英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを明確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。	
学期	学習時期	学習事項	考查等
一学期	4月 Lesson 1 Unit1 ~ Lesson 8	リーディングスキル 読む前にわかること / パラグラフの基本構成 / パッセージ構成 / 論説文の読み方 / 物語文の読み方 / 指示語	第1回実力考查
	5月 Lesson 1 Unit 2 Lesson 2	A Black and White Beau Let There Be Light! help + O + 動詞の原形 / unless... that (those) of ~ / so (that) ...	1学期中間考查
	6月 Lesson 3 Lesson 4	How the Kiwi Lost Its Wing Nature Technology no matter how ... / would rather ~ (than ...) even though ... / enough to ~	
	7月 Lesson 5 Lesson 6 Lesson 7	Buyology The Functions of Language Coffee Travels the World one..., the other ~ / the + 比較級, the + 比較級... 挿入句の入った疑問文 / 条件節のない仮定法 倒置(否定語の協調) / 完了形の分詞構文	1学期末考查
	8月 Lesson 8	Reviving Cambodian Silk Culture suggest + that + S + (should) + 動詞の原形 prevent + O + -ing	第2回実力考查
二学期	9月 Lesson 1 Unit 3 Lesson 2	Laughter is the Best Medicine Soup for Everyone! 健康・日常生活 食文化	
	10月 Lesson 3 Lesson 4	Monet's Passion for Japan The Science behind the 美術・国際交流 科学	2学期中間考查 第3回実力考查
	11月 Lesson 5	The Man Who Planted Trees 物語	卒業考查
	12月	演習 大学入試センター対策	
三学期	1月	演習 大学入試センター対策 大学入試2次対策	
	2月	演習 大学入試2次対策	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		1. 予習－授業－復習のサイクルを確立する。 予習: 入まのりや谷をこつて、校舎にこまのり。不知語は又加のり頻に復に肝責に唯証。疑問点を相たのりする。 授業: 予習校舎に理肝にまのりつにこつてを中心に授業を文ける。 考んはかり失語を理肝し、估用リス 復習: 盲証を標り返してのりて予習したこつて理肝を休める。利山半語で里安衣境はてのりてのりつに見ふス 2. ミニノートを作成し、理解や習熟が必要な事項を授業中に書き込み、常に携帯して重要表現等を復習	
評価の観点		- コミュニケーションへの関心・意欲・態度（授業時の学習の様子、提出物） - 外国語表現力の能力（授業時の学習の様子、提出物、小テスト、定期・実力考查） - 外国語理解の能力（授業時の学習の様子、提出物、小テスト、定期・実力考查） - 言語や文化についての知識・理解（授業時の学習の様子、提出物、小テスト、定期・実力考查）	
評価の方法		1. 定期考查は、教科書・問題集・教材プリントから出題。（全体評価の60%） 2. 実力考查は、既習事項の応用発展問題と問題集・教材プリント等の課題範囲から出題。（全体評価の20%） 3. 残り20%は、休日課題や訂正ノートなどの提出物、授業時の取り組み状況等を評価する。 4. 上記の1～3を総合的に判断し、5段階評価を行う。	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
外国語	英語表現Ⅱ	2	必修	一斉	普通	3

No.24

英表Ⅱ

教科書（発行所）	BIG DIPPER English Expression（数研出版）
教科書以外の教材	ライトハウス英和辞典（学研），ブレイクスルー総合英語（美誠社） 英作基本文例600（啓隆社）

目 標		英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。	
学期	学習時期	学習事項	考查等
一学期	4月	Part 2 lesson 1～5 英語表現上のコミュニケーション機能を学ぶ。場面や状況に応じた適切な表現を活用する。	第1回実力考查
	5月	Part 2 lesson 6～10	1学期中間考查
	6月	Part 2 lesson 11～15	前期中間考查
	7月	Part 2 lesson 16～20	
	8月		前期期末考查
二学期	9月	Part 3 lesson 1～3 プレゼンテーション	
	10月	Part 3 lesson 4～5 ディスカッション	2学期中間考查 第3回実力考查
	11月	Part 3 lesson 6～7 ディベート	卒業考查
	12月	演習 大学入試センター対策	
三学期	1月	演習 大学入試センター対策 大学入試2次対策	
	2月	演習 大学入試2次対策	
先生からのアドバイス 授業の進め方 （予習・復習の仕方等）		1. 予習－授業－復習のサイクルを確立する。 予習：入まかな内容をつとえ、授業へとつとめる。未知語は又肌から復習後に評書で確認。疑問点を明かにする。 授業：予習段階で理解できなかったところを中心に授業を受ける。 考えながら英語を理解し、活用する。 復習：音読を繰り返すその日に学習したことの理解を深める。新出単語や重要表現はその日のうちに覚える。 2. ミニノートを作成し、理解や習熟が必要な事項を授業中に書き込み、常に携帯して重要表現等を復習する。	
評価の観点		・ コミュニケーションへの関心・意欲・態度（授業時の学習の様子、提出物） ・ 外国語表現力の能力（授業時の学習の様子、提出物、小テスト、定期・実力考查） ・ 外国語理解の能力（授業時の学習の様子、提出物、小テスト、定期・実力考查） ・ 言語や文化についての知識・理解（授業時の学習の様子、提出物、小テスト、定期・実力考查）	
評価の方法		1. 定期考查は、教科書・問題集・教材プリントから出題。（全体評価の60％） 2. 実力考查は、既習事項の応用発展問題と問題集・教材プリント等の課題範囲から出題。（全体評価の20％） 3. 残り20％は、休日課題や訂正ノートなどの提出物、授業時の取り組み状況等を評価する。 4. 上記の1～3を総合的に判断し、5段階評価を行う。	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
家庭	フードデザイン	2	選択必修	一斉	普通	3

No. 25

フードデザイン

教科書（発行所）	フードデザイン cooking & arrangement（教育図書）
教科書以外の教材	2014 生活学・Navi・資料+成分表

目 標		栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食生活を総合的にデザインするとともに、学習した内容を生かして家庭や地域において進んで食育の推進に寄与する能力と態度を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	なぜ食物が必要か 健康に必要な栄養素 炭水化物・脂質	食物摂取の必要性や健康維持のための各栄養素の働きについて理解する。	小テスト
	5月	たんぱく質・無機質 ビタミン 食品の選び方	[実験・実習] 食品選択の注意点、食に関する情報収集の手段を知る。	
	6月	食品の成分と変化 安全性・消化性	生産・流通の仕組みを理解する。 [ワーク] 食品の色・香り・味の成分を知り、成分の調理との関係や、栄養成分が体内で消化吸収される過程を理解する。	小テスト
	7月	色・香り・味の成分 調理の目的	[実験・実習] 調理は食品を食事の目的に合うようにつくりかえることであることを理解する。	一学期末考查
	8月		[実験・実習] [ワーク] 食物の味 さまざまな要因に影響される味について理解する。	
二学期	9月	食べ物のおいしさ 調理操作	基本的な調理操作の方法や意味、調理器具の特徴について理解し、調理の基本を身につける。	
	10月	食品の調理性 献立作成	[実験・実習] [ワーク] 食品の調理性を理解し、応用できる能力を身につける。	小テスト
	11月	献立作成の留意点 様式別の献立と調理	献立を作成するための留意点を理解し、のぞましい献立作成ができる能力を身につける。 [実習]	
	12月	食卓作法 テーブルコーディネート	テーブルコーディネートの基本をふまえ、食卓の整え方や供応に伴うマナーを身につける。 [ワーク]	卒業考查
三学期	1月	これからの食生活	よりよい食生活を創造するために、自分の食生活の課題を見つけ改善しようという意欲をもつ。	
	2月			
	3月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		1 現在の自分の食生活に、さまざまな角度から関心を持ちましょう。 2 健康で豊かな食生活の改善に努め、家庭での取り組みも大切にしましょう。 3 実験・実習は、周囲と協力しながら熱心に取り組みましょう。 4 ノートは見やすいよう工夫して記録しましょう。授業後に提出して評価の参考にします。		
評価の観点		「関心・意欲・態度」・・・授業に積極的に参加し、ノート記録もよくなされているか。 「知識・理解」・・・平常の授業の中で学んだことを理解し、認識できているか。 「技術・技能」・・・調理・食生活の管理について、技術や技能が目標を達成できたか。 「思考・判断」・・・与えられた課題に対して、十分考え判断することができたか。		
評価の方法		「小テスト」と2回の定期考查を実施し、授業への取り組みや提出物を総合的に評価する。 「関心・意欲・態度」20% 「知識・理解」40% 「技術・技能」20% 「思考・判断」20%		